

「自転車愛、人間愛、地球愛」のテーマ掲げ、小型モビリティの可能性を展望



来場者でぎわう展示会場

展示会場をにぎわせた電動アシスト自転車、電動スクーター、電動ミニカーのニューモデル。話題を集めた駐輪場グランプリの受賞作品。ウイズコロナ時代のライフスタイルを支える新製品。サイクルツーリズムや乗り物新時代の可能性を語り合ったパネルディスカッション。5年目を迎えた今年の「BICYCLE CITY EXPO」(自転車まちづくり博)は、例年にも増して多彩な話題が交錯する展示イベントになつた――。

2日間にわたつて開催された同展示会の模様を振り返つてみよう。

緊急事態宣言が発出された中で開催された今年の「BICYCLE CITY EXPO」(自転車まちづくり博)は、新型コロナの感染防止対策を徹底させた異例の展示会であつた。

入念な検温・消毒体制、マスク、フェイスシールドの着用、換気対策、ソーシャルディスタンス。今年は主催者、来場者の双方にとって厳しい制約下での展示会となつたが、ふたを開けてみれば展示会にはそうした不自由さをはね返すだけの強固なポテンシャルが満ちていた。まさに「自転車愛、人間愛、地球愛」のテーマに裏打ちされたコンセンサスが会場

のそこかしこに息づき、社会変革の志を感じさせる活気あふれる展示会となつたのだ。

「自転車、超小型電動モビリティは3密から遠い有意義な乗り物である」「ウイズコロナ・アフター・コロナ時代の移動手段は自転車、電動モビリティが重要な役割を担う」

「乗物の動力源は電気、Eパワーが主力となっていく」

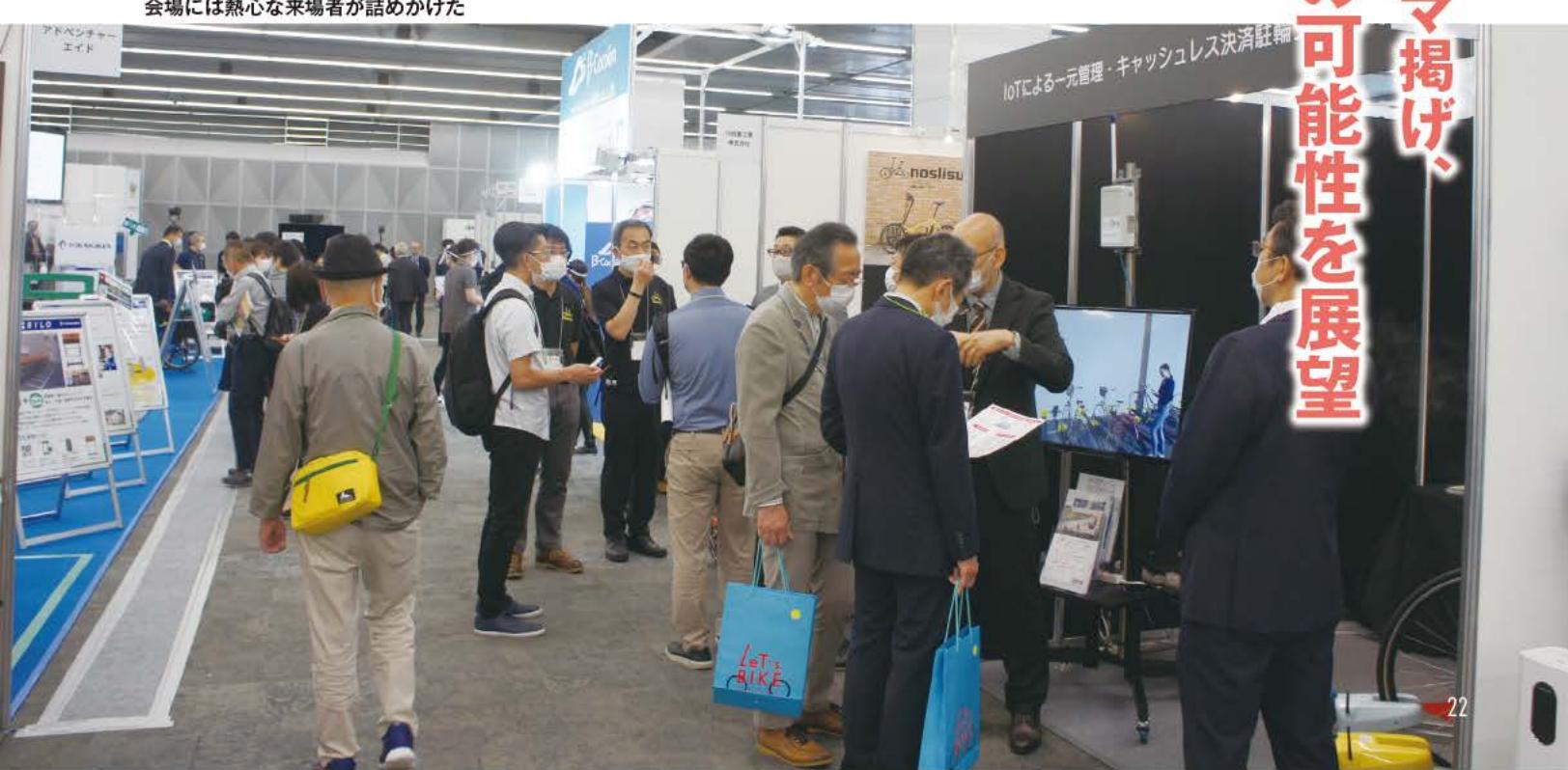
「電動アシスト自転車、電動モビリティを活用したライフスタイルの普及は時代の大きな流れであり、それをさらに促進していくのが業界の役割である」

「サイクルツーリズムは間違いなく経済活性化の一翼を担う」

「機能アップした駐輪システムは自転車利用環境を進化・向上させる基盤となるものだ」

「交通社会を支える基本は安全性の確保。自転車、小型モビリティの発展は安全重視の構想なくしてあり得ない」

会場には熱心な来場者が詰めかけた





サイカパーキングは自転車シミュレーションを設置し、自転車利用環境の向上を目指す企業スタンスを示した



モータリスト合同会社はイタリア・ファンティックの高機能e-バイクを出品



マジカルレーシングは自転車用のデリバリーボックスを提案



特設ステージでは連日、パネルディスカッションが行われた

は自転車・電動小型モビリティ業界の中で確立され、クローズアップされていった。そうした機運を象徴するイベントとなつたのが「BICYCLE CITY EXPO 2021～自転車まちづくり博～」だった。

換言すれば、自転車業界、電動小型モビリティ業界にはビジネスチャンスの芽が加速度的に拡充されているわけだ、今年の「BICYCLE CITY EXPO 2021～自転車まちづくり博～」が活気あるものになる下地は充分にあつたのだ。

緊急事態宣言下で出展を見合わせる企業が少なからずあつたことは事実だが、予定どおり展示場に集結した出展者は社会貢献への使命感、ビジネスチャンスを

しつかりと意識した企業と言えるだろう。そして、展示会場に参集した来場者もまた、モビリティワールドがたどるべき進化、変革の道を横索する有志の人熱心なビジネスマンだった。コロナ禍で苦しむ社会情勢にもかかわらず、いや、だからこそ本展平会が熱気に満ちていたと言うべきだろう。

展示会場には自治体関係者、自転車小売業者、駐輪場関連業者、情報・通信関連企業、自転車・パーツ・用品メーカー、デベロッパー、道路・建設関連業者、建設コンサルタント、シェアサイクル運営会社、防犯・セキュリティ関連業者、スポーツ・健康関連企業、鉄道・交通関連企業、旅行・観光関係業者、商業施設・公共施設・オフィスビル・学校関係者、自

転車愛好家などさまざまな立場の人達が集結した。

「BICYCLE CITY EXPO 2021～自転車まちづくり博～」は、出展者と来場者の熱い想いがクロスオーバーし、自転車・電動小型モビリティ業界のさらなる成長を予見させるエキサイティングな催しとなった。



展示ブースには意欲的な製品が多数展示された

e-バイク、電動モビリティ、自転車・パーツ・用品、 自転車デリバリー、駐輪機、観光・ツーリズム、 道路関連製品など多彩な製品が集結



ASK商工会は最新式リサイクル装置をアピールした



OSSの垂直2段式ラックは訴求力充分の製品だ



川崎重工がリリースした注目のノスリス



展示会場では垂直2段式ラックなどさまざまな駐輪機が公開された

「BICYCLE CITY EXPO 2021～自転車まちづくり博～」では、自転車・パーツ・用品の現況と未来形、電動アシスト自転車・e-バイク・電動小型モビリティの最新動向、交通社会の未来と新たなライフスタイル、自転車観光ツーリズム、自転車走行空間の整備・拡充、最新駐輪システム、シェアサイクル、自転車と健康、自転車デリバリー、自転車と異業種の連携、自転車とIT機能のコラボなど自転車・小型モビリティ

を活用したまちづくり、環境未来都市計画の有り様などがさまざまなかたちで提示・公開された。

新型コロナウイルス感染を防ぐためのタッチレス、キャッシュレス駐輪機器の開発は時代の要請で、ウイズコロナの時代にミートした新型駐輪システムが注目を集めたことも特筆事項だ。あらゆる業種にとって新型コロナ対策は不可避のものだが、駐輪場もまったくもつて例外ではない。駐輪場、駐輪システムにもウイズコロナ時代にマッチする技術が求められる。

地元環境に優しいまちづくりを推進していくことは、自転車・電動小型モビリティワールドの発展を根幹から支える基本テーマである。

展示会場で注目と話題を集めていた。展示会場のそこそこにウイズコロナ時代を生き抜く“智恵”と“ピント”が息づいていた。

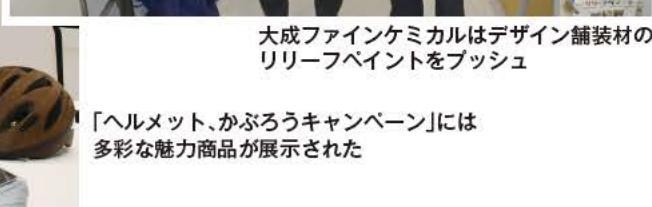
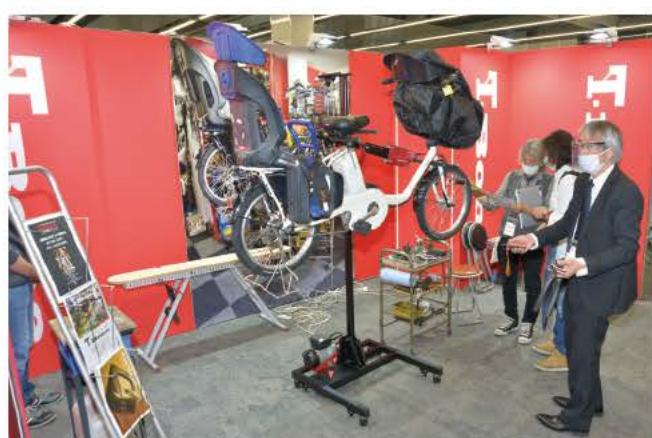
ともかくも「BICYCLE CITY EXPO 2021～自転車まちづくり博～」は、次世代のまちづくりを見据えた新製品・変革の時代を象徴する新システム、趣向を凝らした新提案が結集した展示会であった。

り、そこに焦点を当てた本展示会は多彩かつ多角的な広がりを見せている。そうした展開は自転車・パーソナルモビリティが本来持つている魅力、底力を雄弁に物語っていると言えるだろう。

ともかくも「BICYCLE CITY EXPO 2021～自転車まちづくり博～」は、次世代のまちづくりを見据えた新製品・変革の時代を象徴する新システム、趣向を凝らした新提案が結集した展示会であった。



アドベンチャーエイドのステディラックは注目の製品だ



注目集めた2019・2020年駐輪場グランプリの表彰式

「美しく、機能的に駐輪するシステムづくりを推進

また、特設ステージでは学識経験者、ジャーナリスト、評論家、サイクリスト、団体職員、民間業者によるパネルディスカッション、製品発表会などが2日間にわたり実施された。ステージで公開されたフレッシュな話題、新情報、注目すべき新提案は来場者の注目を集めることとなつた。

「駐輪場グランプリ2019・2020年BICYCLE PARKING OF THE YEAR」の受賞作品の発表・表彰式、ヘルメットかぶろうキャンペーンの特別ブースも話題を集めた企画だった。

2019駐輪場グランプリで最高峰のグランプリ大賞を受賞した国分寺駅北口地下自転車駐車場、優秀賞の渋谷駅東口地下自転車駐車場、北区赤羽駅西口自転車駐車場、2020年駐輪場グランプリで優秀賞を受賞した松本駅北自転車駐車場・松本駅アルプス口自転車駐車場、大阪市のヴェロスタなどの表彰式、受賞物件のパネルによる展示公開は今年の展示会のハイライトでもあつた。

BICYCLE CITY EXPO 実行委員会

委員会は、来年の展示会に向けて2021年駐輪場グランプリを実施する予定で、さらに進化した自転車駐車場、機能アップした駐輪システムの誕生をパックアップしていく構えた。



シナネンサイクルは独自のカーゴバイクに注力



初日に2019・2020駐輪場グランプリ表彰式が開催された



SWALLOWは電動キックボードに注力



カツデンアーキテックのお洒落な駐輪ラック



エアレスタイヤをpusshuした武田産業



現役競輪選手の岡田浩太氏は
S1NEOを強力推進



eBikeRは個性派電動モビリティを出品



PLAZISのEVデリバリー

ライジング出版では「BICYCLE JAPAN」、そして雑誌「BICYCLE CITY」で緊急キャンペーン「自転車愛・人間愛、地球愛。自転車は人類の危機を救う!」を展開してきたが、その集大成の場となつたのが「BICYCLE CITY EXPO 2021」だった。

毎年、展示会の模様は一般マスコミにも広く報道され、反響を呼んでいる(昨年は新型コロナ感染拡大の影響で開催中止)。自転車を活用したまちづくりは今まで注目を集めるテーマのひとつだ

が、自転車愛キャンペーンを展開することで「BICYCLE CITY EXPO 2021」は一段と社会性を増し、力強いバックボーンを得ることになった。新型コロナウイルスという未曾有のビンチは、自転車ワールドが新たな可能性を切り開く好機でもある。ビンチの裏にチャンスありだ。

「BICYCLE CITY EXPO 2022」も例年同様、5月後半に開催される予定だが、自転車・小型モビリティの需要拡大という社会情勢を背景として

ことは間違いないだろう。

(展示会の詳細は雑誌「BICYCLE CITY 7月号」に掲載)

コロナ禍の試練をチャンスに変える 新機能製品、魅力システムの輩出に期待!



カギのニッコーは高機能製品を強力アピール



エンビジョンは個性的な電動アシストカーゴバイクを出品



独自のメンテナンスシステムを提示したシゲオー